

RPJ News

2018年 12月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行 E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

連絡先 090-1811-7119

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

内 容

* きらりの集い 2019 in しまね のご紹介

エスポアール出雲クリニック 形部 周平

(きらりの集い 2019in しまね実行委員)

* 第50回島根県精神保健福祉大会に実行委員として参加して

実行委員 エスポアール出雲クリニック 高尾 由美子

* 第34回中四国精神保健福祉士大会 島根大会開催に関わって

医療法人エスポアール出雲クリニック 平野 洋平 (PSW)

* 事務局からのお知らせ

今月に入り、気温がグッと下がってきました。いよいよ冬将軍の到来でしょうか？師走、年末ということもあり何かと気忙しさを感じます。

今年2度目のRPJNewsの担当が回ってきました。前回7月は、脳損傷者ケアリングコミュニティ学会の様子をお伝えしました。今回は、島根県で開催された『きらりの集い(ピアサポートとリカバリーの祭典)』『第50回島根県精神保健福祉大会』『第34回中四国精神保健福祉士大会』についてエスポアール出雲クリニックの職員から報告させていただきます。

※文中の写真は、7月号で紹介しました脳出血で障害を抱えながら撮影を続ける祝部(ほうり)英明さんの作品をお借りして掲載させていただきました。

* きらりの集い 2019 in しまね のご紹介

エスポアール出雲クリニック 形部 周平

(きらりの集い 2019in しまね実行委員)

「みなさん“きらり”していますかー？」

きらりの集いの合言葉です。ご存知の方もおられるかもしれませんが「きらり」とは一体何のことかとお思いかもかもしれません。私の最初の出会いは昨年秋ごろに先輩 PSW から「きらいの集い 2018in おきなわ」のことを紹介され、2019年は島根県であるから行ってみたい？手伝ってくれない？と唐突に言われたことがきっかけでした。2年前、イタリア地域精神保健視察研修に参加し様々な刺激を受け、所属や資格にとらわれず私自身ができることは何か、所属や資格で繋がるのではなく地域の人たちと人として繋がるにはどうすればよいかと考えていました。先輩 PSW の話にその可能性を感じ、家族への(主に妻への)交渉は困難を極めることは覚悟をしていましたが、沖縄県開催ということもその勇気への後押しとなり、様々な交換

条件のもと無事(?)参加することができました。

さて、冒頭に話を戻します。「きらりとは何でしょう」でしたが、ここではその人固有の魅力をさします。それは他者と出会うことで発見され、磨かれてまた誰かを導き、繋がりあってその可能性は更に「きらり」と輝く、それが「きらり」です。きらりの集いです。抽象的な表現で分かりにくいと思いますが、ご紹介させていただきます。

「きらりの集いの誕生」

精神障がいをもつ当事者とその支援者が協働でつくるイベントです。経験の分かち合いによる学びを大切にピアサポートや自分らしい生き方を探求するリカバリーをテーマに全国規模で開催され、2013年の福岡県(第1回目)を皮切りに、鹿児島、佐賀、広島、名古屋、沖縄とバトンが引き継がれてきました。

2019年は、ご縁の地島根県を舞台に1月13日～14日にかけて島根県民会館で開催されることになりました。きらりの集いは、所謂後ろ盾のような組織や団体はなく趣旨に賛同した人たちで実行委員会を組織し企画運営を行います。しまねの実行委員も当事者はもちろん、資格や業界を越えて幅広い人材が揃いました。現在、奔走中です。ちなみに、再来年2020年は東京都で開催されることが既に決まっています。



作業療法フェスタ2015 入選作「朝日」

「その人固有の魅力、そして、多様性を認め合うこと」

私たち誰もがそれぞれのライフステージで所属が変わり、立場が変わり、考えが変わり、大人になるにつれ、様々な社会的役割を纏い始めます。自分のどの面を見ても。そうすると、しばしば「自分らしく」なんて考えずに、その場にあった振る舞いを選択しているのではないのでしょうか？それは決して少数派ではないと思います。そういうことに支配されないためには、勇気のいることですが、自分の中で正当化した言い訳を手放し、思ったことは言えばいい。違ったままで繋がっていくことが一人ひとりの多様性を認め合うことになり、ありのままの自分だからこそ他者と本当の意味で通じ合い自分固有の魅力が見つかるのだと思います。このイベントを作り上げていく過程を通じて正にそのことを私たち自身が体験しています。社会的役割を脱ぎ、ありのままの自分で繋がれる場をコミュニティの中に拓くことは、障がいの有無を越えて誰にとっても可能性に開かれた社会を創造することにも繋がると思います。

「マイプロジェクト」

所謂“学会”ではありませんが、分科会というイメージがしやすいと思います。きらりの集いは、専門的な分野ばかりではなく、県を越えて参加される当事者の方たちが中心になって企画(エントリー)し、日々の生活の中で感じる発想を実現できる機会として考えています。(=マイプロジェクト)一人で思っても出来ないことはたくさんあります。しかし、それを言葉にすることで同じ考えを持った人が集まり実現できるかもしれません。きらりの集いはそのために人との繋がりや場所や道具を提供します。

きらりの集い2019inしまねでは、展示などを含めると2日間に分けて30の分科会が企画され、内容はユニークでとても様々です。このRPJNewsを読まれている頃には申込みのメ切後かもしれませんが、

Facebook や Twitter 等でも随時情報を発信していますので是非ご覧ください。

「さあ、いよいよ」

きらりの集いをご紹介するのに、文章的に表現すると何か思想的な感じがしてとっつきにくいと感じられたかもしれませんが、要するに、一人ひとりの多様性を認め合い誰にとっても可能性に開かれた住みやすい社会にするために、そういう想いをを持った人が集まって活動を続けています。

ある当事者の方は「支援する人と支援される人の中には見えない隔りがある。支援する人は僕のためだと言いながら、サービスという枠組みの中で型にはめようとする。本音を言っても受け止めてもらえない。」とっておられました。きらりの集い実行委員会では、支援する人される人ではなく、きらりの集いをつくる同じ当事者として向き合っています。ですから衝突することもあります。いつもだと支援される人が支援する人になったりします。



作業療法フェスタ 2017 出品作「葉を彩る宝石」



「ロウバイ」

しまね大会まであと1ヶ月を切りました。2018年1月に沖縄で体験し、2月から毎月実行委員会に参加してきましたが、苦難や夢を語り合った楽しみもあと少しです。そんな結晶を皆さんにも是非体験していただければと思います。遠方の方は難しいかもしれませんが、当日参加も出来ますのでお近くの方はご参加ください。

2020年は東京、2021年は北海道に決まりました。そのあとは、皆さんのお住まいの地域で開催されることもあるかもしれません。そんな時は、是非飛び込んでみてください。

* 第50回島根県精神保健福祉大会に実行委員として参加して

実行委員 エスポアール出雲クリニック 高尾 由美子

今回の記念講演の講師は、夢風舎 舎長の土屋徹氏でした。看護師、精神保健福祉士、SST 普及協会認定講師でもある土屋氏は「こころの元気」でも度々コメントされている方でした。10月のデイケア学会千葉大会では、いくつものワークショップ企画に登場され、穏やかな人柄を感じながら、大会当日は皆の声を上手く引き出されるのだらうと期待しました。ご自分のこと、家族の話にも触れられ、それぞれの病気の部分ではなく、強み(出来ること)に目を向けることが大事と分かりやすく話されました。一人一人が笑顔になるためには自分自身の強みを知ること、自分の強みに注目できると自分を支える魅力、強さに繋がるということでした。

「夢や希望は何ですか?」と聞かれると、応えきれない人は多いように思います。「病気をしたから人生が変わった。病気をしなかったら結婚もできた。病気をしたせいで、お先真っ暗!」と早めから諦めている

人が意外に多いと思います。今回講演後の座談会では、地元の「出雲人の会」の活動紹介があり、20年くらい前から、生きづらさを持った人たちが集まることから始まり、集うなかで、それぞれにとって役立つことを実感して、人の繋がりを感じているという活動紹介がありました。「今は、福祉就労しているけど、就職したい」「年齢(63歳)的に、無理せずこのままを維持したい」「姉が亡くなったので、施設にいる兄に出来るだけ面会に行きたい」「結婚したい」とそれぞれの夢、希望を語られました。

皆さんの前向きな話を聞きながら、私自身はきちんとした関わりが出来ていたのだろうか、私自身の関わり方に問題があったのではないかと思いました。それぞれ夢や希望を聞くことが出来ていたのだろうか。15年近く前にヴィレッジ研修に参加させていただいて、「リカバリー」「ハイリスク、ハイサポート」「多職種連携」・・・学んだことは多かったけれど、実際どれだけのことが出来ていたのだろうかと思いました。頭でわかったつもりで実践に繋がっていないのでは?と思いました。とかく出来ないことに目が向いて、諦めていた自分がいたと感じました。障害がある、無いではなく、人としてどう関わるか、自分も笑顔が多い状態にいるには、自分自身の認識のズレを改めなければならないと思いました。



「神秘」

* 第34回中四国精神保健福祉士大会 島根大会開催に関わって

医療法人エスポアール出雲クリニック 平野 洋平(PSW)

中四国精神保健福祉士大会が、今年は島根県松江市において平成30年11月23日(金・祝)～24日(土)の日程で開催されました。

精神保健福祉士(以下、PSW)の全国組織として日本精神保健福祉士協会がありますが、中四国精神保健福祉士大会は同協会から支援等を受けない任意の大会として昭和60年に第1回大会が発会されて以降、中四国の会員が研鑽、交流を深める大会として引き継がれています。

このような大会が毎年開催されるのは他のブロックにはなく、各県の先輩PSWからの繋がりを感じつつ、大会実行委員会事務局として当院の中堅PSW3名が参画し、1年半前から開催準備に携わってきました。

大会運営の経験がない事務局として、経験豊かな実行委員の意見を集約しつつ、開催までに必要なことを計画立て統合していく作業は、なかなか経験できない意味のあることでした。そう思える一方で、毎月の実行委員会の日が台風のように近づき、過ぎ去るまでは逃げ出したい気持ちになることがしばしばでしたが、先輩方、事務局の同僚からの助言、心遣いに有難さを感じました。

今年も自然災害が西日本等の各地で起き、また、各種催しが多く開かれる秋でもありましたが、大会参加者は当初の見込みより大幅に増えたことに一安心。

島根県は、開催県として今大会が4度目ですが、PSWのあるべき姿「理念と技術の調和を求めて」を普遍のテーマとしています。

本大会では、「我が事・丸ごと」「リカバリー」をサブテーマとし、基調講演(講師:田中英樹氏・早稲田大学人間科学学術院 教授)でリカバリーについての共通理解を図り、パネルディスカッションでそれぞれ

の職域の実践を通じて思案を深めることができました。

特にパネルディスカッションでは、当事者の方から、自分を肯定的に捉え、人生を考えることができるようになった過程、支援者との関係性をどう作っていくか試行錯誤された過程を通じて、「当事者から見たリカバリー」や「当事者から見た支援者」、「当事者が支援者に望むこと」等を語られましたが、その率直な言葉に参加者一同ははっとしたように聴き入っていました。きっと、自らの実践と権利擁護やリカバリー支援について振り返る貴重な機会になったことと思われます。

また、島根県からの話題として、特別報告「離島の精神科医療を守りぬく～隠岐病院からの報告～」では、離島や中山間地域等の医療過疎地域の課題を指摘し、今後の精神医療、精神保健福祉への問題提起となる機会となったように思われます。

分科会は、ギャンブル障がい支援(SAT-G「島根ギャンブル障がい回復トレーニングプログラム」の略称)のワークショップ、「夢を支える」をテーマにした実践報告、「それぞれのリカバリー」をテーマとしたワールドカフェ、若手PSWを対象にインシデントプロセス法を用いた事例検討を行いました。

二日間にわたる長丁場ではありましたが、互いの実践から刺激を受け、親睦も深めることができ、県を越えた顔の見える関係がより一層築けたのではないかと思います。



平成 28 年度「肢体不自由児・者のデジタル写真展」出品作 「鮮やかに咲く」



* 事務局からのお知らせ

- 2019 年第 13 回イタリア地域精神保健視察研修ツアー募集開始のお知らせ
最終ページに詳細を記載しておりますが、今年中止となりましたツアーの再募集となります。精神保健の発展にとって大変重要な地域の視察となっておりますので、是非ご検討ください。



ー編集後記ー

高尾さん、島根の活動状況の報告有難うございます。各地各様の活動や全国規模の地域開催など、この分野で活躍されている皆様が地域の支援や活性化、日本の精神保健水準の向上に貢献されている姿が浮かびます。この様に本紙面を通して情報を発散していただける事は協会活動の原点を支えている理念に合致するもので、とても嬉しく思います。これからも会員の皆様に活用して頂けると幸いです。

さて平成最後の年末を控え、帯広セミナーが1年遅れですが実施できたことの喜びと、2006年から11年続けてきたイタリアが実施できなかった事など、悲喜こもごもです。来年5月には新元号になり、気分一新でイタリアに出発します。皆さん連休明けで忙しい時期でしょうがご一緒しましょう。(m.niki)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL090-1811-7119

2019年 イタリア 地域精神保健視察ツアー



2019年第13回イタリア地域精神保健視察ツアーを実施します。昨年中止となりましたので再度の企画となります。在宅ケアのアレッツォと、そのモデル地区ヴァルディキアーナ、精神保健の聖地トリエステ、そして研究都市である世界遺産のヴェローナを訪ねます。

【研修概要】

- アレッツォ:フィレンツェの南東 61km、トスカーナ州アレッツォ県の県都、人口 9 万 8000 人のコムーネ。在宅ケアを中心に精神保健医療が発展した地域、保健センターや緊急病院、共同住居を視察する予定です。映画「ライフ・イズ・ビューティフル」の舞台となった場所。
- ヴァルディキアーナ地区:コルトーナ(人口 2 万 2000 人のコムーネ)を中心とする地域。在宅ケア実践の地。一昨年から司法精神病院閉鎖の実践活動も開始。保健センター等を視察予定です。
- トリエステ:最後にイタリア精神保健の聖地といわれているトリエステ訪問。F・バザーリアの活動から精神病院を閉鎖したイタリアの象徴であるトリエステでは、精神病院跡地であるサンジョバンニ地区視察と社会協同組合訪問の予定です。
- ヴェローナ:ヴェネト州にあるヴェローナ県の県都、人口 25 万人のコムーネ。旧市街は世界遺産。イタリア精神保健研究の中心地ヴェローナでは、元ヴェローナ大学教授ブルチ先生からイタリアの最新情報を伺います。精神保健センターやセルフヘルプ活動の視察予定です。

この機会にイタリアの地域精神保健の視察研修に参加してみませんか。ご参加お待ちしております。移動の状況により上記訪問地以外、フィレンツェ、ヴェネチアのプチ観光の可能性が有ります。

期間: 2019年5月13日(月)~5月22日(水) 10日間 全研修通訳付き

参加費: 39万8000円 (シングルルーム使用は+7万円)

航空運賃・宿泊・研修・通訳費含む。空港諸税・燃油サーチャージは別途ご負担ください。

募集人数: 12名程度 ※申込み10名未満の場合は催行中止となります。

申込み締切り: 3月31日(日) (定員になり次第締め切りとなります)

スケジュール (研修は全て通訳が付きます)

5月13日	月	羽田 or 成田発→経由地→フィレンツェ空港(予定)	アレッツォ泊
14日	火	アレッツォ視察・研修	アレッツォ泊
15日	水	ヴァルディキアーナ視察・研修→フィレンツェ移動	フィレンツェ泊
16日	木	フィレンツェ→トリエステ移動	トリエステ泊
17日	金	トリエステ研修	トリエステ泊
18日	土	トリエステ視察→メストレ移動	メストレ泊
19日	日	メストレ→ヴェローナ移動	ヴェローナ泊
20日	月	ヴェローナ視察・研修	ヴェローナ泊
21日	火	ヴェローナ空港→経由地→22日(水)羽田 or 成田着	機内

※ホテルはツインルームを2名で使用して頂きます。(シングルルーム使用は追加料金が必要です)

企画 特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会

Email: ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp、HP: http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/

Tel: 090-1811-7119